

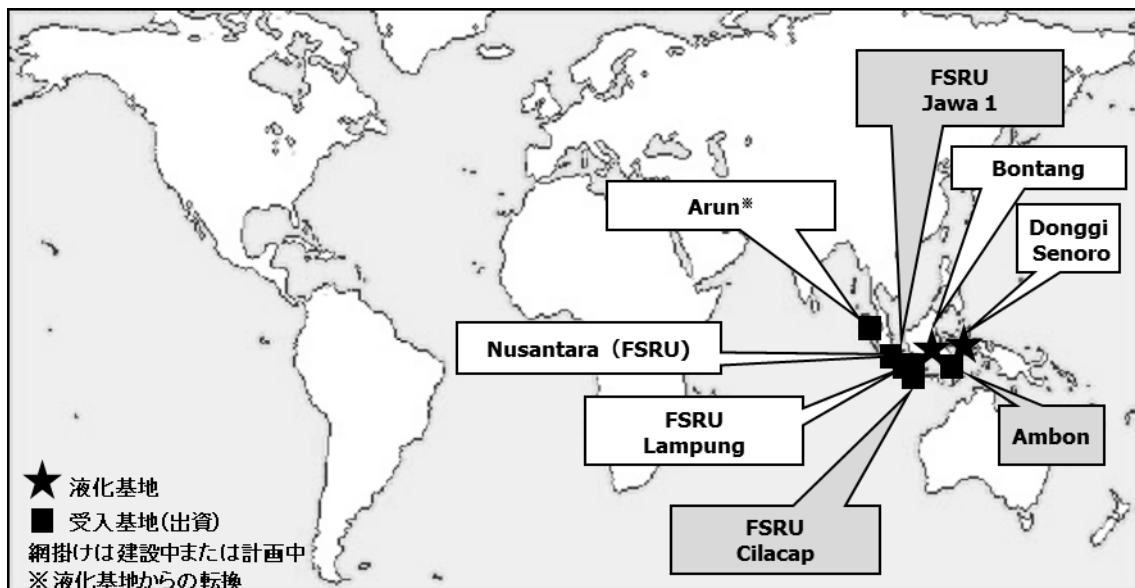
17. Pertamina

(1) 企業概要

Pertamina は、インドネシア政府が株式の 100%を保有する国営石油会社である。従来は石油・天然ガス事業の上流から下流までを専管していたが、2001 年の新石油ガス法施行以降は、上流部門および下流部門の規制・監督に関する権限が、上流部門は SKK Migas（旧 BP Migas）へ、下流部門は BPH Migas へ移管され、Pertamina は SKK Migas との生産物分与契約（PSC）に基づき上流事業を行っている。

Pertamina の事業領域は、石油・天然ガスの探鉱・開発・生産を行う上流部門と石油・ガスの精製・輸送・販売を行う下流部門に分けられる。2019 年の生産量は、石油が 41.4 万 bbl/d で前年比 5.2%増、天然ガスが 2.82 Bcf/d で前年比 7.7%減となっている。

Pertamina の LNG 液化・受入基地図



(2) LNG 関連

Pertamina にとって LNG 事業はコア事業の 1 つである。国内には Bontang LNG 液化プラントと Donggi Senoro LNG 液化プラントを保有し、1970 年代後半より、日本、韓国、台湾、中国等に LNG を販売してきた。近年は南アジアやアフリカ地域への進出を模索している。2018 年 10 月、バングラデシュの Petrobangla に対して長期 LNG 供給契約を締結した事がその一例である。

新たな LNG 受入基地に関しては、ジャワ島において新規天然ガス火力発電所及び洋上 LNG 貯蔵・再ガス化設備（FSRU）の建設プロジェクトが進められている。2021 年に予定している発電所完工から 25 年間にわたりインドネシア国営電力公社 PLN に対して売電する計画で

IV. 主要企業別 LNG 事業動向

あり、Pertamina は日本企業の丸紅や双日、商船三井と合弁会社を設立し、インドネシア初の Gas-to-Power プロジェクト実現に向けて取組みを進めている。なお、同プロジェクトには国際協力銀行等による協調融資及び日本貿易保険による保険が付保されている。

Pertamina の LNG 購入契約に関しては、2019 年 2 月、Anadarko Petroleum との間で、Mozambique LNG 1 プロジェクトから LNG を年間 100 万トン、20 年間購入する長期 LNG 売買契約を締結している。Pertamina はこのほかにも複数件、2020 年以降の LNG 購入契約を締結している。

Pertamina が出資する LNG プロジェクト

国名	プロジェクト名 (Train名)	液化能力 (万トン/年)	生産開始	出資者	主要仕向地
インドネシア	Bontang, Badak I (Train A, B)	540	1977年	PT Badak NGL (Pertamina 55%, VICO 20%, Total 10%, JILCO 15%)	アジア
	Badak II (Train C, D)	540	1983年		
	Badak III (Train E)	280	1989年		
	Badak IV (Train F)	280	1993年		
	Badak V (Train G)	280	1998年		
	Badak VI (Train H)	300	1999年		
	Donggi Senoro LNG	200	2015年	DSLNG (Sulawesi LNG Development(三菱商事75%, KOGAS 25%)59.9%,Pertamina Hulu Energi 29%,Medco LNG Indonesia11.1%)	アジア

Pertamina の LNG 契約

輸出国	プロジェクト	契約期間 (契約年数)	契約数量 (万トン/年)	受渡条件
インドネシア	Bontang (Jangkrik Field)	2017-2024年 (7年)	140	FOB
アメリカ	Corpus Christi LNG (Train1,2)	2018-2038 年(20年+OP10年)	76	FOB
		2019-2039年 (20年+OP10年)	76	FOB
モザンビーク	Mozambique Area 1 LNG	(20年間)	100	N.A.
Totalによる 複数の供給源(ポートフォリオ契約)		2020-2035年 (15年)	40~100	N.A.
Woodsideによる 複数の供給源(ポートフォリオ契約)		2019-2034年 (15年間)	60 (→110)	N.A.
ExxonMobileによる 複数の供給源(ポートフォリオ契約) HOA		2025-2044年 (20年)	100	N.A.

Pertamina が出資する受入基地

国名	基地名	出資者	受入能力 (万トン/年)	受入開始
インドネシア	Nusantara(FSRU)	Nusantara Regas (Pertamina 60%, PGN 40%)	300	2012年
	FSRU Lampung	Perusahaan Gas Negara (Pertamina 56.96%, インドネシア政府 1株, その他 43.04%)	290	2014年
	Arun (液化基地からの転換)	Pertamina	300	2015年
	FSRU Cilacap	Pertamina	120	計画中
	FSRU Java-1 Independent Power Producer (IPP) Project	PT Jawa Satu Regas (Pertamina 26%, 丸紅20%, 商船三井19%, 双日 10%, その他25%)	230	2021年 (建設中)
	Ambon	Perusahaan Gas Negara (Pertamina 56.96%, インドネシア政府 1株, その他 43.04%)	N.A.	計画中

(3) 今後の戦略

Pertamina は世界クラスの国家エネルギー企業となるビジョンを掲げており、石油・ガス・再生可能エネルギーの統合型ビジネスを推進している。上流分野では埋蔵量・生産量の積み増しを中核的な事業目標と位置付け、国内外の M&A を進めている。2018年4月には、インドネシア政府が保有する国営ガス大手 PGN の株式が Pertamina に移管され、PGN は同社の傘下に入った。これにより、両社のガス事業を Pertamina に集約し、投資余力を拡大することでガスのインフラストラクチャー整備を加速させている。

また、2019年12月には Pertamina が所有する Arun LNG 受入基地の使用権について同社が主要株主である PPT Energy Trading Singapore と HoA を締結した。Arun LNG 受入基地の使用権は3年間であり、LNG ハブ基地として運用される。